



キッチンの床を一段凹ませているのはワンススタイルの提案から。キッチンの対面に造った、子どもの勉強机と目線が合うように考えたもの。また、このキッチンから奥のバントリー、勝手口にも行きやすい。



キッチンからダイニングまでの動線は一直線に。その奥が子ども部屋になる動線。これは「家に帰ってきたら必ず、リビングを通して部屋に入りたい」という夫人のこだわりから。天井の梁は天然木で、集成材を使用していない。



トイレは明るいイメージで造作。ガラス鉢やタイル選びはコーディネーターがアドバイス。



水まわりも造作でオリジナルに。サニタリーは落ち着いたカラーリングで、棚や収納にも天然木を使っている。



天井、床、建具と無垢材をふんだんに使っているLDK。床は浮造り仕上げで、肌触りがよく質感もいい。ワンフロアのなかでも天井に高低差を付けたり、8寸の大黒柱が視界をさえぎることで、空間をより広く感じさせる工夫も。

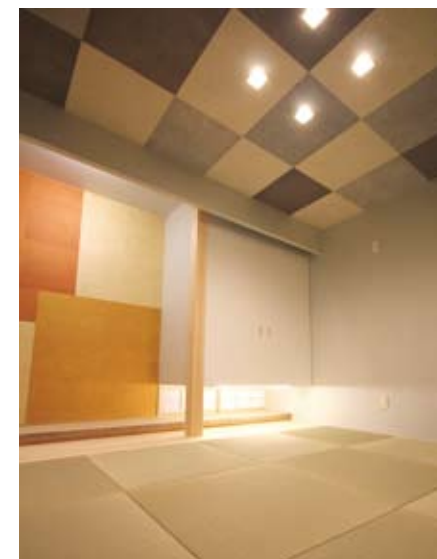


見かけだけではない すべてが自然素材の家

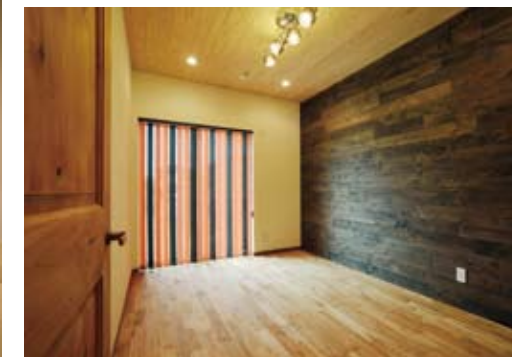
徹底的な自然素材へのこだわりから出会った
施工会社と二人三脚の家づくり

ゆ ったりとした敷地に、堂々と建つ1邸。見ると、住居というより店舗のように洗練された雰囲気。これは、素材はもちろん一つひとつ細部まで、約2年をかけて打ち合わせした1主人のこだわりが凝縮された集大成でもある。「とにかく素材にこだわりましたね。これは見えないところも含めてです。その素材への想いが共通したのか、即決でワンススタイルさんに決めました」と1夫人はいう。1年ほどかけて10社ほど施工会社を見て回った1夫妻。そんなとき、ネットで出会ったのがワンススタイル。「まずは資料請求して打ち合わせに行ったのですが、話す間に、見かけだけの自然素材ではなく、自分が求めていたものだと感じたようです」。無垢材、珪藻土など見える部分の自然素材はもちろん、石膏ボード、グラスウール、サイディングなどを使わず、無添加素材で家づくりを行っているところに共感したそう。土地はもともとあったので、出会ってからすぐに家づくりの打ち合わせを始めた。

平屋のプランは、土地とのバランスを考えてワンススタイルが提案。「最初は頭になかったのですが、ここでもすこく時間がかかりましたね。結局は、最後の住みやすさを考えて平屋にしました」と1夫人。平屋に決まってきたら、ふたりの希望を交えながら素材、動線まで本当に細かく打ち合わせを重ねた。「まさに完璧です。予算がいくらでもあったら別ですが、限られた予算のなかでいろいろアイデアを出していたら、ワンススタイルさんには本当に苦労をかけたと思います」。結果、柱や梁の構造材はもとより、下地に使う材木や床、天井に使う杉材など100%愛媛県産材のみを使用。本物の自然素材あふれる住まいが現実のものになった。



特殊な調湿する和紙デザインパネルやタモの皮付きの床板など、オリジナルティあふれる和室。和紙の配色も一緒にこだわってデザイン。



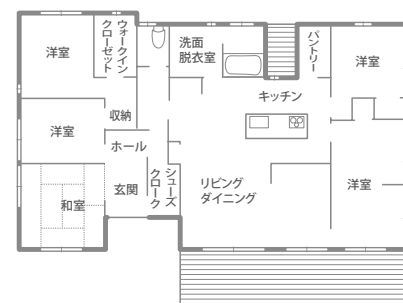
1主人のホビールーム。ここだけダークな色合いで、床、壁を変えている。ブラインドや照明は、夫妻がこだわって選んだもの。



当初は長方形のボックスのような外観だったが、それではメリハリがないと一部天井を高くしてアクセントに。

> 1邸Housing data

家族構成 / 夫婦+子ども3人
竣工 / 2012年2月
構造 / 木造軸組工法・平屋建
延床面積 / 151.3㎡ (45.8坪)
1F / 151.3㎡ (45.8坪)
土地 / 749.5㎡ (約227坪)



1st Floor

設計・施工 / 有限会社ワンススタイル ☎089-985-0030

企業情報 - P000